

エンジン始動

塚田 實

二回のワクチン接種を終えて二週間経った。まだ緊急事態宣言発令中でもあり、大人数での会食は自粛継続だが、都道府県境を越えない活動は開始しよう。「まずは暫く行っていない東京国立博物館か」。持っていた友の会会員証の有効期限は一月二十四日で切れている。しかも無料の特別展観覧券はまだ五枚も残っていた。

東京国立博物館は緊急事態宣言下でも感染対策をとって、事前予約制で開館している。「国宝 聖林寺十一面観音」と「聖徳太子と法隆寺」の二つの特別展を開催していたので夫々事前予約した。

七月十三日博物館の窓口にお問い合わせると、閉館や特別展の延期があり、会員証は四月三十日で期限切れでも、特別展観覧券は八月三十一日まで有効だという。とつくに期限切れと思っていたので、両方の当日券分の計三千七百円儲かったような気になり、気持ちよく回った。

「国宝 聖林寺十一面観音」の観音菩薩立像は、会社の関西支社にいたとき、談山神社の紅葉を見に行った帰りにふと立ち寄って初めてお会いした。その後何回も訪れたので、久し振りに懐かしい友達に会ったような気がした。聖林寺の狭い収蔵庫の中で、一人じっと眺めていたときは厳しい表情に見えたのに、広くて明るい会場では凛々しさの中にも優しさが感じられた。

「聖徳太子と法隆寺」は太子千四百年遠忌記念特別展だ。我々の聖徳太子のイメージは旧一万円札の肖像になった「聖徳太子二王子像」の太子像だろう。しかし通常では拝観機会がない法隆寺聖霊院（ひんがしん）の秘仏本尊「聖徳太子像」を観て、印象が変わった。目もと鋭く、きりりとした表情には国の礎を築くという強い意志が現れていた。

実り多いエンジン始動の半日だった。これからはコロナで活動を制限されていた分、残りの人生を有意義に過ごしたい。大勢での飲食は当面自粛が続くので、暫くは映画や美術館、コンサートなどのイベントを楽しむことにしよう。コロナが収まれば、飲食を含めてエンジン全開だ。